

| | |
|---------------|--|
| テーマ | 地域の健全育成の環境づくり |
| 区市町村 | 練馬区 |
| 児童館名 | 北町児童館 |
| 活動名 | 歴史や文化を生かした地域行事への参加 |
| 目的 | 児童館を利用する子どもたちに地域の歴史や文化などを気づかせ、地域への愛着を深めさせると同時に、地域住民と直接交流できる機会を設けることにより、地域全体で子どもたちを見守り、声をかけあう暖かい環境づくりに努める。なお、地域行事に参加するにあたっては、児童館ならではの子ども本位の立場から地域住民との協働の進展を目指す。 |
| 主な対象 | 小学生から |
| 活動の経緯 実践内容 | <p>児童館が所在する北町地域には、かつて練馬区内で唯一の宿場・川越街道下練馬宿がありました。2km以上にわたって北町地域を走る旧街道の大部分は現在も東武東上線東武練馬駅南口を中心に3つの商店街が軒を連ね、宿場町の昔をしのぶよすがとなっています。</p> <p>1 「きたまち阿波おどり」への参加 <活動の経緯></p> <p>平成3年に東京都と練馬区の支援を受けて、旧川越街道沿いの2つの商店街がコミュニティ商店街事業に着手し、商店街によるイベントづくりの研究が始まりました。当地が旧川越街道の宿場町であったことから、川越や他で行われている時代まつりに注目が集まりましたが、意外と費用がかかることがわかり、前夜祭として話が出ていた「阿波おどり」を一度試してみようということになったそうです。</p> <p>平成5年の夏に初めて開催され、北町児童館も当時の商店会長さんのお誘いを受けて平成6年の第2回から参加させていただきました。ここから四半世紀にわたって続く北町地域の子どもたちによる「北町児童館 北町チルド連」が誕生しました。子どもたちが着用する半纏から連の名前が入った高張提灯まで、すべて用意していただき、事前の練習も地元の商店街がつくる連のみなさんのご指導による“見よう見まね”のスタートでした。</p> |

活動の経緯
実践内容

<実践内容>

令和元年7月27日に開催された「第27回きたまち阿波おどり」に向けて練習が始まったのは5月9日からです。5月は誰でも参加できる練習を児童館職員の指導により4回行いました（のべ33人の参加）。5月半ばには阿波おどり実行委員会から児童館長あてに参加確認のための文書が届き、5月31日に参加を表明した上で、初参加以来、連綿と続く地元のみなさんによるご指導を改めてお願いしました。

6月1日から正式に参加者の募集が始まり、その後も20日までに3回の練習を行っています（のべ19人）。そして、6月22日に保護者向け説明会を行い、同日から本番前日の7月26日まで計13回の本格練習が始まりました（のべ343人）。この間に地元のみなさんがつくる2つの連から合わせて5回の指導をいただきました。本番は7月下旬の夏真っ盛りのころ、夕方6時35分からおどりが始まるというものの、午後8時35分の終了までの2時間をおどり切る体力をつけるために、毎回40分程度の練習に汗を流しました。6月末で参加者募集をしめきり、参加者は小学1年生から6年生までの36人となりました（台風の接近により、おどることができなかった昨年度は53人が応募）。

いよいよ7月となり、本番まで1か月を切ることになりました。7月3日夜、実行委員会主催の連長会議が開催され、児童館長以下3人の職員が参加し、本番当日のスケジュールや遵守事項を確認しました。また、練習日や時間とは別に、参加する子どもたちが来館したときに声をかけ、本番の時に銘々が使用するうちわづくりをしました（片面は連の名前が入った共通のデザインで、もう一方の面に好きな絵や文字を書きました）。そして、本番目前の22日に保護者向けの文書を配付して、当日のスケジュールや身支度、児童館からのお願い事項などをお伝えしました。

今年度も台風の接近により、直前まで開催が危ぶまれましたが、当日は少し強めの涼やかな風が吹く好天に恵まれ、気持ちよくおどることができました。参加者は前日までに2人のキャンセルがあり、34人となったものの、当日は1人の落後者もなく、それぞれ300mほどの距離がある2つの演舞場を交互に流しおどって合計4本をおどり切ることができました（2つの演舞場間の連絡は商店街の裏道を歩いていかなければならないので、当日の総延長は3kmにも及んだと思われます）。児童館には鳴り物の楽器がないため、毎年指導を仰ぐ地元商店街の連のお囃子の後ろについておどっています。

| | |
|---------------|---|
| 活動の経緯 実践内容 | <p>2 「下練馬宿まつり 練馬だいこん献上絵巻再現劇」への参加</p> <p><活動の経緯と実践内容></p> <p>練馬区特色ある商店街づくり支援事業として、北町地域の3つの商店街が結成した下練馬宿活性化委員会が主催する「下練馬宿まつり 練馬だいこん献上絵巻再現劇」が初めて開催されたのは平成30年11月のことです。</p> <p>これは、江戸幕府5代将軍・徳川綱吉が、将軍になる前に現在の北町地域に御殿を建てて病気の療養中に、地元の農家に作らせた大根のおかげで病気が治ったことから、後に将軍となっても練馬の大根を献上させたとする「練馬だいこん」発祥の伝説にちなんだ時代行列がメインとなっています。徳川綱吉が将軍になる前に鷹狩をするための御殿が北町地域にあったことや、実際に鷹狩の際に綱吉が滞在したことも幕府の記録から事実であることがわかっています。</p> <p>まつりでは、徳川綱吉や大根を献上する名主さん以下、時代衣装を身に付けて行列する60人近くの人たちが地域のかたを中心に公募で選ばれることになっています。中でも大根献上台車を引くのは子どもたちの役回りです。児童館では、このまつりが開催されることを事前にキャッチしていましたが、すでに動き始めていた地域の行事にどうかかわるかで悩んだ末に、まずは人手の足しにしてみようことにしました。第1回目のまつりには、児童館長以下4人の職員が黄色のベストを着用して、行列の後ろにつく交通安全要員を務めることにより、児童館職員が地域行事にかかわっていることをアピールするにとどまりました。</p> <p>第2回目のまつりは令和元年11月24日に開催されました。今回は活性化委員会の事務局にいち早く働きかけを行い、大根献上台車を引く子どもたちの世話と台車の管理・安全運行を担当する役割をいただきました。また、出演する子どもたちの募集にも一役買い、児童館を利用している子どもたちの参加も実現しました（3人のみでしたが…）。当日は児童館長以下4人の職員が従事し、行列の中で違和感なく溶け込むために足軽の衣装まで着用して、四隅から台車を押しながら子どもたちと商店街を練り歩きました。</p> |
|---------------|---|

| | |
|--------------|--|
| <p>効果や課題</p> | <p>児童館による「きたまち阿波おどり」への参加は、長年の実績から地域のみなさんのよく知るところとなっています。低学年のころから毎年参加してくれる子たちもいますが、その一方で、もっと上手になりたいと思う子たちは、年間を通じて活動している地元商店街の3つの連のいずれかに所属するようになります。いわば、「北町児童館 北町チルド連」は地域の子どもの阿波おどり入門の場としての役割を果たしているといえましょう。毎年7月の最終土曜日に開催されている阿波おどりですが、令和2年は東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、9月19日に日程が変更されることが決まっています。例年とは違う時期に受付から練習、本番へと推移していくことになるので、スケジュールの検討が必要となることは必至です。</p> <p>また、「下練馬宿まつり 練馬だいこん献上絵巻再現劇」については、令和2年度から練馬区の補助金がなくなり、3つの商店街の独自予算による開催となります。すでに第2回の開催前に行った打ち合わせ会議の席上で、事務局から「行列は今回限り。来年からは別の形となる」との説明がなされています。2回のまつりへの参加を通じて感じるのは、沿道で見物する子どもも含め、「きたまち阿波おどり」とは比較にならないほど、地域の子どもの関心度が低いことです。令和2年に開催されるまつりも子どもたちが参加できる地域行事にさせていただけるように、児童館が準備から参画できたらありがたいと思っています。</p> |
|--------------|--|

| | |
|-------------|--|
| <p>活動写真</p> |  |
|-------------|--|

児童館のプロフィール

| | |
|-------------------|--|
| <p>児童館名</p> | <p>練馬区立北町児童館</p> |
| <p>運営主体</p> | <p>公設公営</p> |
| <p>所在地・電話番号</p> | <p>練馬区北町1-19-17 / 03-3931-5481</p> |
| <p>開館日・時間・休館日</p> | <p>(開館日) 月曜～金曜 10:00～18:00 火曜・金曜は17:00～19:00まで中高生の居場所づくり事業を実施 土曜・学校休業日(夏・冬・春休み)・都民の日 9:00～18:00 (休館日) 日曜・祝日・年末年始(12/29～1/3)・練馬子どもまつり開催日</p> |